



委 員 会 報 告

医療事故防止委員会

○設置目的

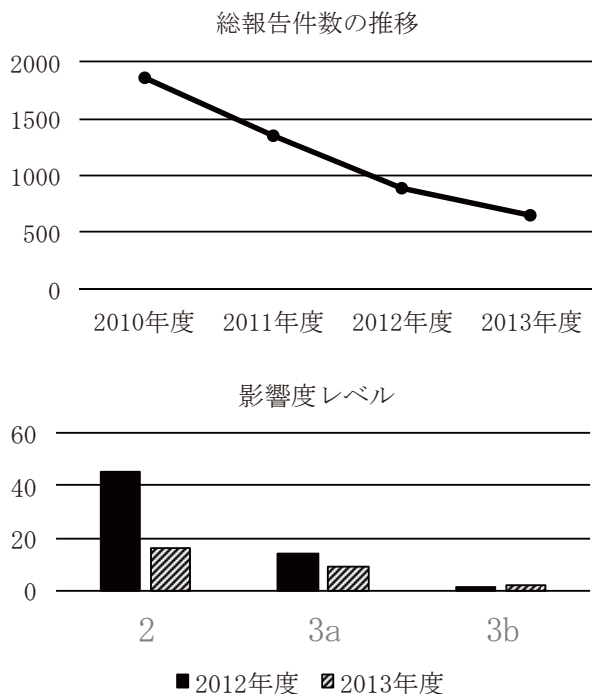
- 1) 医療事故防止委員会の開催
- 2) 報告されたインシデントについての原因分析、対策の検討、職員への周知
- 3) 医療安全に関する職員研修・指導
- 4) その他、医療安全に関する事項の協議

○委員構成

委員長 1 名（院長）、副委員長 2 名（医療安全管理室室長、診療情報管理室室長）、看護部長、事務長、各部署長等からなる 21 名

○2013 年度の活動報告

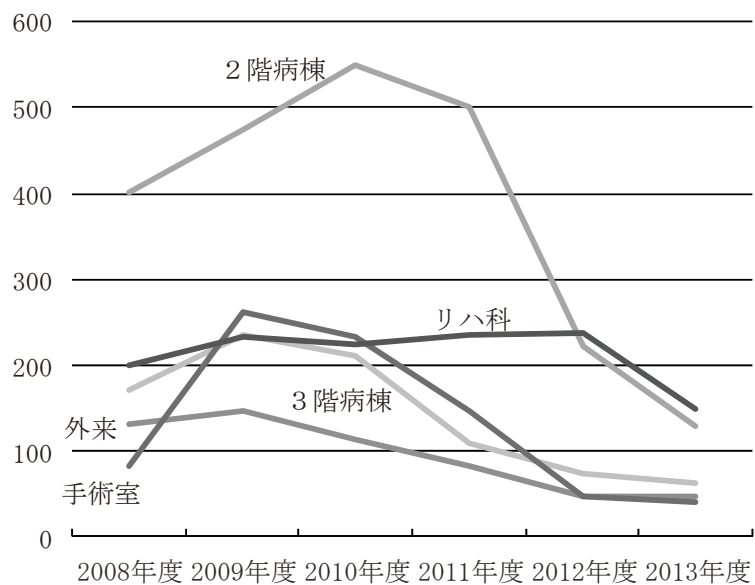
委員会では毎月、委員会の開催日前日までに報告されたインシデント事例 1 か月分の中から重要事例を採り上げ、部署内での対応・対策を確認、協議し、対策が不十分であれば、あらためてその改善を依頼し、結果を翌月の委員会にて確認した。また、複数部署にかかわる事例では、対応・対策について協議・調整した。2013 年度のインシデントの総報告件数は 642 件であった。2012 年度は 891 件、2011 年度 1349 件、2010 年度 1866 件で、年々 30% 前後の割合で減少している（下図）。



インシデントの影響度は、レベル 4a 以上（後遺症の残存あるいは死亡）はなく、レベル 3b（濃厚な治療を要する（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術入院期間の延長、外来患者の入院、骨折等））が 2 件（人工関節置換術後の脱臼、低血糖）、レベル 3a（簡単な処置・治療を要する（消毒、湿布、皮膚縫合、鎮痛剤投与等））が 9 件（4 分の 3 は移乗あるいは更衣時の擦過傷等）、レベル 2（処置・治療は要しない（バイタルサインの軽度変化、観察強化、検査の必要性））が 16 件（3 分の 2 は転倒・転落）であった。2012 年度は、レベル 3b が 1 件、レベル 3a が 14 件、レベル 2 が 45 件であり、レベル 3a は 36%、レベル 2 は 64% と 2013 年度は大幅に減少した（左図）。ただし、レベル 2 の 16 件のうち 2 件は誤薬に関するものであり、実害はなかったが、重大な結果を招来する恐れがあった。

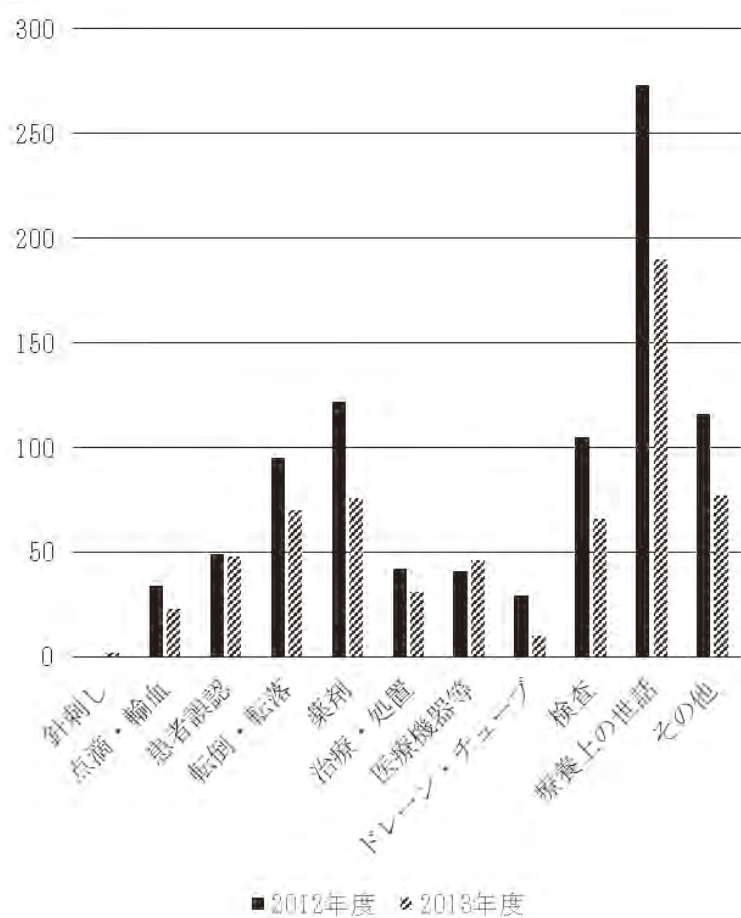
部署別報告数（発生・責任部署ではない）の推移を次表に示す。上述のとおり平均 30%の割合で報告数は年々減少してきているが、各部署とも減少傾向にあり、とくに看護部（外来、病棟、手術室）の減少が著しい。また、例年 200 件以上報告のあったリハ科においても大きく減少した。この 5～6 年の変化には、2009 年度からの手術件数増加、2010 年 9 月の病院機能評価受審、2010 年 10 月以降、報告数の増加を奨励しなくなったこと、など種々の要因が影響していると考えられる。インシデントの実数を反映したものであると考えたい。上記部署については下図にグラフ化した。

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
医局	64	73	41	11	8	8
外来	132	147	113	83	48	47
2 階病棟	402	474	550	500	223	129
3 階病棟	170	235	210	109	73	63
手術室	83	261	233	146	46	40
薬剤科	41	57	68	40	71	53
リハ科	199	233	224	235	238	148
放射線科	48	56	57	37	33	26
臨床検査科	91	64	65	52	39	24
栄養科	169	213	154	49	49	28
医療事務課	48	127	116	72	35	34
地域医療連携室	35	28	22	11	11	16
診療情報管理室					16	22
その他	8	11	13	4	1	4





事故種類別にみると、2012 年度に比べ、11 項目中「針刺し」、「患者誤認」、「医療機器等」以外の項目は減少した（次図）。とくに「ドレーン・チューブ」は 66%減少し、「薬剤」は 38%、「検査」は 37%、「点滴・輸血」は 32%、「療養上の世話」は 30%、「転倒・転落」および「治療・処置」は 26%減少した。2012 年度は「針刺し」の報告はなかったが、2013 年度は 2 件の報告があった。いずれもインスリン注射器のリキャップ時に起きたものであった。





2013 年度の目標として、①インシデント報告は迅速に、分かりやすく記載（入力）すること、②迅速に委員に報告すること、③事故種類等正しく選択すること、④委員は迅速に詳細を分析し、報告すること、の4点を掲げた。考察は「医療安全管理室」の頁に詳述した。

教育研修については、以下の通り行われた。

- 1) 酸素療法講習会（4/26）
- 2) 医療安全勉強会－事例検討会（9/27）
- 3) 医療安全勉強会－事例検討会：グループによる RCA（1/31）

○2014 年度の重点目標

各部署の委員がインシデント報告を頻繁に閲覧し、自部署のみならず他部署の報告にも目を通す機会を増やすようにすること、を目標に掲げる。そうすれば、インシデントの発生から対策の始動までの期間が短縮すると思われ、また、インシデントの発見者の部署（報告部署）と当事者の部署（責任部署）とが異なる場合、委員欄入力を報告部署のほうで済ませてしまうような事例も減ると思われる。

○2013 年度の委員会開催日

2013/4/19、5/17、6/14、7/19、8/23、9/27、10/18、11/29、12/27、2013/1/17、2/21、3/14（計 12 回、臨時開催なし）

○まとめ

「針刺し」、「患者誤認」、「医療機器等」以外は大幅に減少しているが、種々の雑多なインシデントを含む「療養上の世話」および「その他」、ある程度は避けられない「転倒・転落」を除くと、実数の上では「薬剤」、「検査」の占める割合が依然高い。少しでも減らせるようさらに工夫を凝らしてもらいたい。



感染対策委員会

○設置目的

院内感染に関する事項、感染者の状況把握と対策に関する事項

院内感染の研究教育に関する事項、感染者の統計処理、感染性廃棄物処理に関する事項

○委員会構成

委員長、副委員長 3 名、委員 20 名

○2013 年度の活動報告

院内感染防止対策の実施 状況の把握 指導を行なう。

院内各部署巡回を行い院内感染に関する情報収集し、院内感染の蔓延防止に努める

- 1.早朝申し送り時、感染患者の報告を行い全職員に周知し感染に対する意識を高める。
- 2.早朝申し送り時、感染の流行情報などを全職員に感染委員長より伝達し感染予防に努めた。

- 3.一行為一手洗いをポスター掲示し職員、面会者への周知を図った。

グリッターパグを使用し、各部署手洗いの実際を把握結果を出す 11/15～11/30 施行

- 4.マニュアルの改訂時、委員会で協議し、決定後、各部全職員へ周知を図った。

5.勉強会

- 1) 標準予防対策について (5/24)

大正富山医療薬品 外部講師

- 2) 医療関連感染症 木下昭生院長 (11/29)

空気感染 3 F スタッフ

飛沫感染 外来スタッフ

接触感染 2 F スタッフ

6.職員教育

新人職員 4 月 スタンダードプリコーション、針刺し事故予防対策について勉強会

7.職員感染予防対策

- 1) インフルエンザワクチン接種 (11/25. 26. 27) 全職員対象

- 2) B型ワクチン接種 新入職員看護部 B型抗原、抗体検査後 B型ワクチンの接種

8.抗菌薬状況報告

抗菌薬使用状況の統計(薬剤科)

9.サーベランスへの取り組み

腰の術後のデーター用ワークシート活用(固定術、徐圧術者)

MRSAサーベイランス

インフルエンザ発生状況 院内感染なし

感染性胃腸炎発生状況 院内感染なし



10.感染性胃腸炎感染予防防止

環境表面の除菌洗浄 ルビスタ 購入 各部署配置する。

11 月より 3 月まで使用

11.針刺し事故

2013 年度 発生件数 1 件 (インシュリン施行後発生)

12.院内ラウンド

感染チェックリストを作成し毎週 1 回施行した、ラウンド結果を直ちに各部署フィードバックを行い結果を委員会で発表した。

○2014 年度重点目標

- 1) 感染発生に適切かつ迅速に対応できる体制を取り感染防止に努め院内感染の蔓延防止に努める。
- 2) 院愛環線防止対策の実施状況の把握、指導を行う。

○2013 年度委員会開催日

4/16 5/14 6/11 7/9 8/6 9/10 10/8 11/12 12/12 1/16 2/13 3/11

○研修参加

2013 年 12/12. 12/13 平成 25 年度院内感染対策講演会

2014 年 1/26 新型インフルエンザ等対策研修会

他

○まとめ

院内感染予防、スタンダードプリコーションの周知、抗菌薬使用状況の把握を目的に、院内ラウンド週 1 回 行う事となった。各部署での、スタンダードプリコーションについて、勉強し発表する事で感染に対する全職員の感染予防対策への周知徹底を図る事が出来た。しかし、手洗いの状況、医療廃棄物の処理と、出来ていない結果も見えました。今後、全職員が感染対策に対する個人の責任と意識を向上させるよう指導に努めて行きたいと思います。



褥瘡・栄養対策委員会

○設置目的

褥瘡発生患者の原因・分析を行ない褥瘡発生に努め褥瘡発生予防を図る。

○委員構成

委員長、副委員長、委員 12 名

○2013 年度の活動報告

2013 年度の目標

「褥瘡発生患者の原因・分析を行ない褥瘡発生に努め褥瘡発生予防を図る」

- (1) 退院時に褥瘡の治癒状態を評価する。転帰時に治癒なのか転院なのか等を記載する
- (2) マニュアルに沿い報告書を作成
- (3) 委員会にて原因分析を行なう
- (4) 褥瘡予防具の検討

活動

- (1) 週 1 回の褥創回診（火曜）
- (2) マニュアルに沿い報告書を作成
- (3) 委員会にて原因分析を行なう
- (4) 褥瘡予防具の検討

○2014 年度の重点目標

「褥瘡発生患者の原因・分析を行ない褥瘡発生予防に努める」

具体策

- (1) 退院時に褥瘡の治癒状態を評価する（治癒か転院かも記載）
- (2) マニュアルに沿い報告書を作成、見直し、修正
- (3) 委員会にて原因分析を行なう（マット、処置、体位交換等）
- (4) 褥瘡予防具の検討（マット、クッション等）

○2013 年度委員会開催日 毎月第 2 水曜日

○まとめ

2013 年 4 月～2014 年 3 月までの当院褥創発生（持込発生・当院発生）件数と転帰（治癒・退院）件数のまとめを行ない、過去 4 年間とデータの比較を行なった。2013 年度は当院発生患者：11 名（治癒患者：5 名）、持ち込み患者：15 名（治癒患者：7 名）、発生合計：26 名（治癒合計：12 名）であった。今後も原因分析や新たな褥創予防具やアプローチ等の検討を行ない、学会参加などで外部での最新情報を取り入れながら、褥創発生予防に努めていきたい。



サービス向上委員会

○ 設置目的

医療法人明野中央病院における患者サービスに関する事項、サービス向上の為の業務改善、効率化、環境美化および職員の服装マナーに関する事項を行う事を目的とする。

○ 委員構成

委員長 1 名、副委員長 1 名、委員 13 名、 計 15 名

○ 2013 年度の活動報告

- ① 院内・環境ラウンドの実施
- ② 挨拶運動
- ③ 環境美化活動（ごみ拾い）
- ④ 「フィッシュ」活動勉強会→2 月実施

○ 2014 年度の重点目標

より活気ある職場環境への改善
職員挨拶意識の向上を図る
病院内の環境・接遇・マナー・服装等のチェック
働きやすい職場環境への改善
患者サービスのさらなる向上
フィッシュ活動の実施

○ 2013 年度の委員会開催日

4/19 5/17 6/14 7/19 8/16 9/20 10/18 11/15 12/20 1/17 2/21 3/14

○ まとめ

昨年度はより活気ある職場づくりを実践するためにサービス向上委員一丸となって、朝の挨拶運動や、職場環境向上のために院内ラウンド、駐車場内の環境美化活動を行ってきました。次年度もよりよい活気ある職場を目指して、活動をしていきます。



教育委員会

○設置目的

当院における医療事故防止教育、感染症対策教育、医療倫理教育および職員の質向上に資する教育活動を行うことを目的とする

○委員構成

委員長 1 名 副委員長 1 名 委員名 27 名

○2013 年度活動報告

月	日	研修テーマ	
5 月	24 日	感染対策	医療従事者に必要な感染対策、標準予防策とその必要性
6 月	21 日	個人情報	個人情報の取り扱いについて
		地域連携室	介護施設の種類と特徴について
7 月	16 日	教育委員会	東日本震災 浪江町健康調査支援報告 被災地の今
7 月	26 日	NST 委員会	栄養管理の重要性と経腸栄養
9 月	27 日	医療安全	8・9 月のインシデント内容の検討
10 月	25 日	倫理	倫理とは
11 月	23 日	教育委員会	院内研究発表、明野クララ元気ツアー報告会、早川医師座談会
11 月	29 日	感染対策	医療関連感染症、結核の発病と感染の話、空気・飛沫・接触感染
1 月	31 日	医療安全	グループワークにて当院のインシデントの根本原因分析
2 月	21 日	教育委員会	第 1 回医療従事者向け認知症対応向上研修
2 月	28 日	サービス	フィッシュ哲学を取り入れて
3 月	28 日	教育委員会	第 2 回医療従事者向け認知症対応向上研修

○2014 年度重点目標

職員個人のスキルアップと共に、接遇や医療倫理感の向上が得られるような教育や研修を立案し運営する。
図書部門は、今後も図書室の環境整備、各部署の文献請求に対し速やかに対応する。

○2013 年度の委員会開催日 毎月第 1 金曜日



○まとめ

全職員対象の誰が聞いてもわかりやすい研修内容を企画するように各委員会に依頼した。研修会平均出席率 92%、欠席者（免除除く）に対しては研修レポートを提出することで能力のレベルアップを図った。研修内容は、感染の研修会では院長より結核について学んだ。大分県の結核罹患率はワースト 13 位の上位であると知らされた。また感染委員が学習した事をスライドにまとめ発表するなど、委員として積極的に取り組んでいる姿も見られた。医療安全では当院のインシデント事例を全職員で共有し検討を行い、グループワークで根本原因分析法を学び、医療安全への知識を更に深めた。倫理では事例を通して問題を捉え議論するプロセスの大切さなど学んだ。また今年度は臨時研修会を行い、日赤の若林看護師による東日本震災の被災地や救護施設の状況を講演していただいた。また、大分県主催で行なわれた井上医師と認知症認定看護師による認知症対応向上研修を 2 日間に渡り講義を受け、受講した者は修了証をいただいた。研修会後のアンケート結果からも 2/3 以上が研修会を受けて理解できたと答えており、個々の能力レベルのアップができたのではないかと考える。次年度も興味を持って参加できる研修会を企画していきたいと思う。



NST（栄養サポートチーム）

○設置目的

入院患者一人一人に必要な栄養の質及び量の摂取（投与）方法について提案し、健康を早く回復できるように支援するチーム医療

○委員構成

医師（西宮）管理栄養士（中村、江藤）薬剤師（尾中）言語聴覚士（三好、寺岡）
看護師（深井、羽田野、渡辺、赤星、日和佐）

○2013年度の活動報告

- ・毎週水曜日 13:30～対象者のカンファレンス及び回診
（対象者）・SGA評価（B・C）の患者 ・摂食嚥下障害の患者 ・褥瘡患者
- ・アルブミン値 3.0 未満の患者 ・食事摂取量低下の患者 ・大幅な体重減少の患者 ・輸液のみ投与の患者 ・前回様子見の患者
- ・NST 加算が算定できるようになった（2013.10.1.より）
専従 栄養科 管理栄養士（江藤美香子）
- ・2014.3 月より SGA(69 歳以下)と MNA(70 歳以上)の評価表を使用
 - *NST 介入延べ患者数 1091 名／年 介入患者数 273 名／年
 - *補助食品（高カロリージュース・高カロリーゼリー）摂取患者数 24 名／年
 - ・・・・・・58%が改善傾向にあった
 - *NST の勉強会実施（8/26）

○2014 年度の重点目標

- ・対象患者の抽出をスムーズに確実にし、その患者の栄養状態を少しでもアップし早期退院や社会復帰を助ける
- ・対象患者に対して、適切な栄養管理が行なわれているかどうかを判断し、最もふさわしい栄養管理が行なえるように多職種で患者をみる
- ・NST 専門療法を育成（看護部 ST）

○2013 年度の委員会の開催

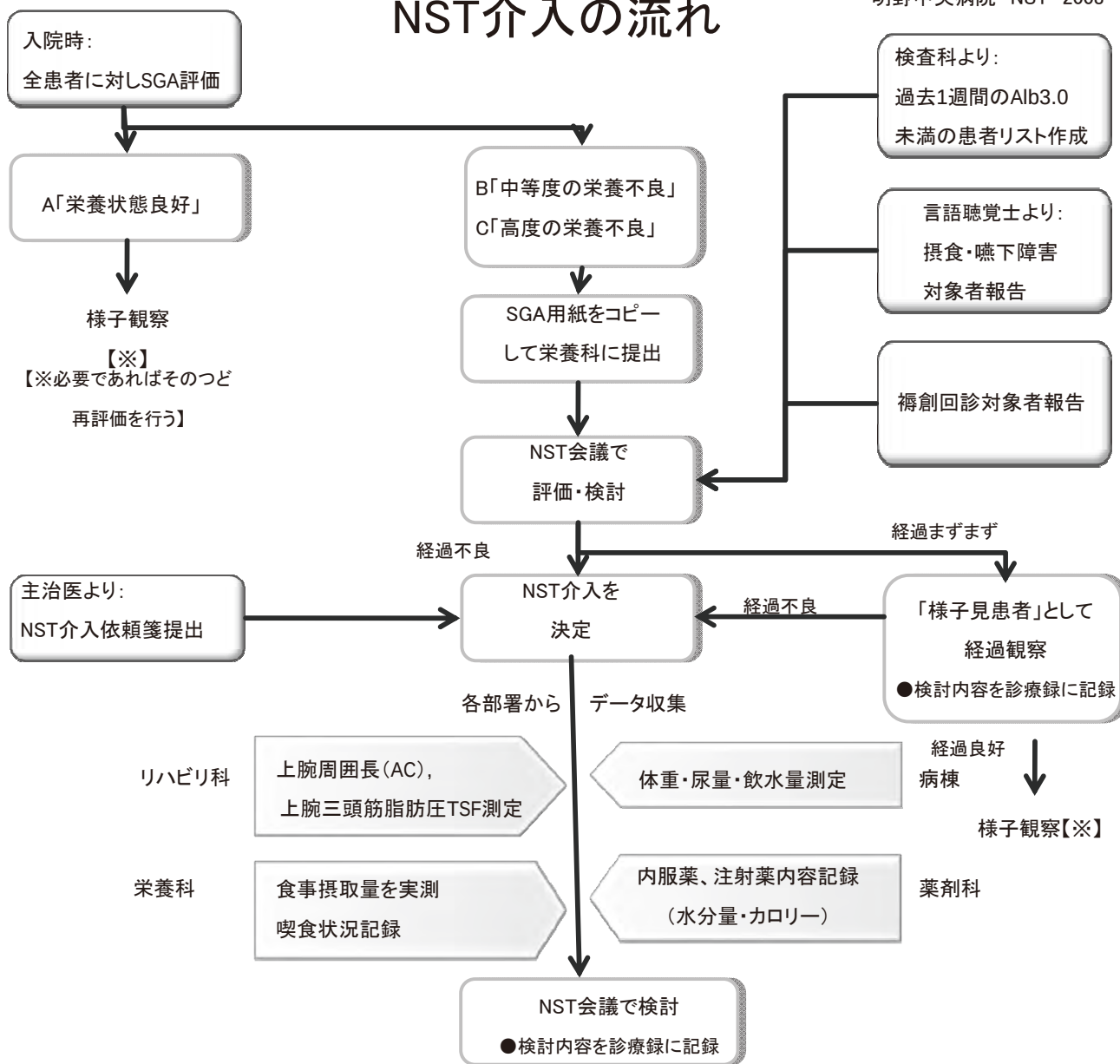
4/24 5/29 6/26 7/31 8/28 9/26 10/30 11/27 12/18 1/29 2/26 3/26

○まとめ

入院時、全患者に対して早期に栄養状態の把握を行い、栄養状態が不良の患者に対して NST が介入し栄養状態の改善に努めたと思います

NST介入の流れ

明野中央病院 NST 2008



NST会議

毎週火曜日 14:00～

NSTメンバー

医師
病棟看護師
管理栄養士
言語聴覚士
薬剤師

対象

- ①NST介入患者
- ②様子見の患者
- ③摂食・嚥下障害対象者
- ④SGA評価B、Cの患者
- ⑤褥創回診対象者
- ⑥過去1週間のAlb3.0未満の患者



糖尿病相談会

○設置目的

糖尿病の治療にあたり、本疾患に対する患者自身とその家族における基本的な知識の理解及び普及を高める。

○委員構成

医師（木下） 管理栄養士（中村） 薬剤師（尾中） 理学療法士（安部、岡次）
検査技師（永沼） 看護師（工藤、玉井、羽田野、）

○2013 年度の活動報告

○第 32 回糖尿病相談会 テーマ 「ハンバーグ定食を試食」

開催日 2012.年 6 月 15 日（土） 場所 管理棟第一会議室 参加人数： 8 名

開催目的 人気メニューのハンバーグ 3 種類(切干大根、レンコン、麩)の試食会を開催、味付けや材料の工夫で低カロリーでも美味しく、かつボリューム感のある食事にする事が出来ることを体験してもらう。同時に食事療法への関心を深めてもらう。

○第 33 回糖尿病相談会 テーマ 「糖尿病と腎障害」

開催日 2013 年 10 月 19 日（土） 場所 管理棟第一会議室 参加人数 7 名

開催目的 三大合併症の一つである腎症について理解し、血糖の正常化を目指す。

患者個々の病期ステージ(GFR)を示し病期ステージごとの注意点、食事内容について理解を深める。

○第 34 回糖尿病相談会 テーマ 「あなたに合った具体的な個別の減量計画」

開催日 2014.年 3 月 15 日（土） 場所 リハビリ室 参加人数 7 名

開催目的 適正体重を維持し、血糖コントロールの正常化を目指す。あえて運動でなくても、日常の生活活動でエネルギー消費を目指してもらう。

※糖尿病透析予防管理料の指導を開始して 1 年・・・1 名の患者に対して実施中

※HbA1c（NGSP 値）の国際基準化に伴う表記法の伝達

○2014 年度の重点目標

- 糖尿病に対する基礎知識の理解及び普及
- 相談会の年 3 回以上の開催
- 糖尿病透析予防管理指導の対象患者を増やす

○2013.年度の委員会開催日

4/1 5/13 6/3 7/1 8/5 9/2 10/7 10/1 11/11 12/2 1/6 2/1 3/10

○まとめ

2013 度は糖尿病患者の教育入院及び糖尿病入院のパスの使用はなかった。

2014 年度は糖尿病相談会開催を 3 回／年実施を目標にし、地域の糖尿病患者さんの治療の支援をしたいと
思います。



深部静脈血栓チーム

○概要

致死的な肺血栓塞栓症（PTE）の発症を防止するためには、深部静脈血栓症（DVT）の予防、早期発見・早期対応に努める必要がある。DVTの予防は、患者ごとにDVTの発症リスクを評価し、そのリスクレベルに応じた予防策を講じることにより行われる。しかし、実際にはDVTの発症に関与しうるリスク因子は多岐にわたり、状態の推移、リハビリテーション（リハ）の進捗状況、療養環境の変化などによっても大きく変わってくる。したがって、当初のリスク評価に基づく画一的な予防対策のみでは、入院期間中、PTEやPTEにつながるDVTの発症を十分には防止しえない可能性がある。そこで、2012年10月、医師、看護師、リハスタッフ、臨床検査技士からなる「静脈血栓塞栓症対策チーム」を組織し、ハイリスクの入院患者を対象に毎週、回診を行いながら、静脈血栓塞栓症（VTE）対策に取り組んできた。

○スタッフ構成

医師1名、看護部部長、各病棟看護師・リハスタッフ（数名ずつ）、臨床検査技士1名

○2012年10月～2013年3月（1年6か月）の取り組みとその成果

本チームの立ち上げに際し「肺血栓塞栓症／深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン作成委員会：肺血栓塞栓症／深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン（2004年）」、「循環器病の診断と治療に関するガイドライン（2008年度合同研究班報告）：肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン」および“ACCP (American college of chest physicians) : Clinical practice guidelines for prevention and treatment of venous thromboembolism (VTE) 9th ed. (2012)”を参考に「静脈血栓塞栓症対策」マニュアルを作成した。また、本マニュアルに沿ったVTE対策を実施していくうえで不足する間欠的空気圧迫装置8台を2012年12月から2013年3月にかけて順次追加購入した。毎週金曜日の定期回診では、患者の状態やリハの状況、検査・診察所見など、多職種間で情報交換を行いながら、各患者のDVT予防策の実施状況とその効果を確認し、予防策の継続・中止・変更等について確認あるいは決定した。また、静脈超音波検査を積極的に行い、DVTの早期発見・早期対応に努めた。回診患者数は456名（整形外科415名（うち本院術後：TKA 133名、UKA 6名、THA 50名、大腿骨近位部骨折61名、計250名）、内科41名）、静脈超音波検査施行患者数141名、同検査施行数211件、DVT新規検出患者数28名であり、PTEの発症はなかった。DVT検出患者のうち下大静脈フィルタの適応となったのは3名、抗凝固療法を開始したのは1名のみであった（他はその後、血栓の消失、縮小あるいは非拡大を確認）。

○学会等における発表

- ・第15回日本看護医療学会学術集会（名古屋市）

村井美鈴、川野麻衣子、柳井弘貴、鈴木京子：「静脈血栓塞栓症対策におけるチーム医療と看護師の役割」（2013年9月7日）

- ・第44回日本看護学会学術集会－成人看護I－（和歌山市）

上野美緒、鈴木京子：「静脈血栓塞栓症対策チームによる定期回診の必要性－肺血栓塞栓症3例の原因分析から－」（2013年10月24日）



- ・院内研究発表会

上野美緒（静脈血栓塞栓症対策チーム）：「静脈血栓塞栓症対策チームによる定期回診の必要性－肺血栓塞栓症 3 例の原因分析から－」（2013 年 11 月 23 日）

- ・院内研究発表会

柳井弘貴、村井美鈴（静脈血栓塞栓症対策チーム）：「術後 DVT 診断を目的としたスクリーニング閾値としての D - ダイマー値の検証」（2013 年 11 月 23 日）

○2014 年度の目標

1) 入院時のリスク評価を正確に行う、2) 有効かつ無駄のない予防策を確立する（マニュアルの改訂）、3) 予防策の変更・中止の判断を遅滞なく行う（リスクの再評価・自主判断）、4) DVT 検出事例への対応を確定する（マニュアルの改訂）、5) 弾性ストッキングを適切に選択する、の 5 点を掲げる。

○まとめ

無症候性 DVT から前兆なく突然発症しうる致死性 PTE は、発症頻度が比較的まれなこともあり、かつては不可避免的、偶発的事故とみなされる傾向があった。しかし、2004 年に VTE 予防ガイドラインが作成され、保険診療上も肺血栓塞栓症予防管理料が算定されるようになり、また、術後 VTE 予防を適応とする種々の抗凝固薬も開発されてきたことから、医療者側が VTE に対して予防義務を負うのは当然のこととなった。つまり、VTE を巡り医事紛争となった場合、予防措置についての不作為の有無が争点になるということである。また、法的責任云々以前の問題として、致死性 PTE が発症した場合、患者側はもちろん、我々医療者側の衝撃と落胆の度合いも大きく、職員の士気低下につながる恐れもあるということを心得ておくべきである。そこで、何としても防ぎたい VTE であるが、予防対策のベンチマークは冒頭に記したようなガイドラインである。しかし、これらのガイドラインはいずれも EBM に基づくため、リスク評価や予防策の具体的施行方法等の詳細について曖昧な点多々あり、また、その特性上、医療経済的側面からの提言という意義も持ち合わせていることから、個よりもマスを対象とした性格のものであり、VTE 予防のための必要十分な要領を明示しているわけではない。したがって、各個に応じた理想的な予防法、管理法を確立するためには、今後とも試行錯誤を繰り返しながら経験を積み上げていくことが重要であると思われる。関係職員のさらなる協力が必要である。

禁煙サポートチーム

禁煙サポートチーム
地域医療連携室
佐藤 善紀

「入院」という特別な状況下では、自宅では普通にできていた外出や食事など、日常の自由な行動が半ば強制的に制限されてしまいます。ある意味とても不自由な期間であるといえますが、「喫煙」をされている方にとってはこの「不自由さ」がまたとない禁煙のチャンスに成り得ます。

敷地内全面禁煙である当院では2013年7月より、他職種からなる「禁煙サポートチーム」を発足させ、入院患者さんを対象に禁煙の啓発とサポートを行ってまいりました。禁煙の意思を表明された方に対し、入院期間を通してそのメリットや喫煙が健康に及ぼす危害などをしっかりと学習して頂き、退院後もメールや電話あるいは外来診療時などに、スタッフによる励ましを計画的に行ってききました。

開始してまもない期間ではありますが、現在（平成26年5月）までの禁煙成功率（退院後3ヵ月以上禁煙継続中の割合）は57%となっており、2人に1人以上は長期の禁煙に成功しているといううれしい結果となりました。保険診療外はありますが、新たな設備投資なども必要無く、私たちの関わり方次第で、より患者さんの健康に貢献できることがわかったこの取り組みを、今後も継続していきたいと思えます。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
入院患者 総数	128	121	125	132	122	112	135	133	139	117	136
喫煙者数	5	13	7	15	9	13	9	6	4	4	3
禁煙サポ ート介入数	4	5	1	3	4	5	1	3	2	3	3
喫煙率	3.9%	10.7%	5.6%	11.4%	7.4%	11.6%	6.7%	4.5%	2.9%	3.4%	2.2%
サポート 介入率	80.0%	38.5%	14.3%	20.0%	44.4%	38.5%	11.1%	50.0%	50.0%	75.0%	100.0%

	1ヶ月 成功率	2ヶ月 成功率	3ヶ月 成功率
総介入数	28	28	28
経過数	28	27	27
禁煙継続数	17	16	16
失敗	9	10	10
不明	2	1	1
禁煙成功率	61%	57%	57%

禁煙サポートチーム 構成

- ・看護部(7名)
- ・薬剤部(1名)
- ・栄養科(1名)
- ・地域医療連携室(1名)



禁煙に成功した患者さんからのコメント

月日の経つのが早いのがビックリです、禁煙してはや 40 日経ったのかと思うと、歳を執ったのが納得します。手術の経過は順調のようです。先日、中村先生より「経過は順調のようなので、コルセットは外してもよからう」との許しを頂きました。今のところ禁煙を守っています。いつまで辛抱できるかは不明ですが、、、 何しろ今回で 3 度目の挑戦ですので、今度失敗をしたら我が家の山の神から愛想を尽かされます。炊事、洗濯、軍曹がいなくなると大変です。月末には又中村先生の診察を受けに伺います。

お気遣いありがとうございます。川崎です。退院後の調子も良好です。禁煙もいまのところはなんとかがんばっています。くじけそうになったときは、次回中村先生に説教される姿を想像してがんばってます。

応援ありがとうございます。禁煙殆ど大丈夫ですが、過去の経験から油断はなりません。頑張ります。

激励ありがとうございます。言われるとおり食事はおいしく頂いており、体重も徐々に増えてきております。この激励がなければ、意志が折れるところでした。特に忘年会時期に入るところで、危険が一杯です。負けないようにがんばります。

応援ありがとうございます。16 日（土曜日）に忘年会があり、やっぱり誘惑に負けそうになりましたが、皆さんの応援を思い出し頑張りました。皆様の応援メッセージは禁煙宣言者にとって禁煙持続の力となります。ありがとうございます。

いつもの激励を感謝いたします。自分のためです。頑張りますよ！それより狭窄症が再発したような気がして心配しているところです。それこそ油断していたかも！！小話 3 話を紹介します。小話その 1、象のキャサリンの足に棘がさりました。地面をせわしく歩いていた蟻のトムに、キャサリンが「トム、私の足の棘を抜いて頂戴よ」「ふざけるな！俺の兄貴はお前の親父に踏みつぶされた～」・・・続きは次の機会に・・・。

今回は大丈夫、受動喫煙もしないようにしていて、タバコを吸ってる人がいたらあっちへ行ってよ、と追い出してます。飴をなめて我慢するようなこともなく、たばこを吸うこと自体忘れてみたい。



親和会（厚生会）

○設置目的

親和会は会員同士の親睦会の向上と福祉の充実を図ると共に、明野中央病院の発展に寄与する事を目的とする。

○親和会スタッフ構成

・会長 1 名 ・副会長 2 名 ・会計 1 名 ・会計監査 1 名 ・役員 11 名

○総会

- ・総会は通常総会と臨時総会の 2 種類とする。
- ・通常総会は、毎年 3 月末に病院総会に合わせて行われる。
- ・臨時総会は、会長が必要を認めた時、または会員 3 分の 1 以上の要求があった時、随時開催する。
- ・議長は会長が行う。
- ・総会は会員の過半数をもって成立する。ただし、委任状出席を認めるとする。

○会計

- ・収入 ①会費 ②寄付金 ③その他（必要に応じて臨時会費を徴収することもある。）
- ・支出 ①職員旅行 ②レクレーション活動 ③忘年会 ④慶弔見舞金 ⑤その他
- ・会計年度は毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。
- ・会計報告は毎年 3 月の通常総会にて行う。

○2013 年度活動報告

①院内ボーリング大会開催

開 催 日：2013 年 6 月 28 日

開催場所：OBS ボール

参加人数：49 名

懇 親 会：木の花ガーデン

参加人数：54 名

②職員旅行

実 施 日：2013 年 9 月 20 日～22 日 （2 泊 3 日）

旅 行 先：沖縄（おきなわワールド、美ら海水族館、首里城、フルーツランド）

参加人数：16 名

実 施 日：2013 年 10 月 4 日～6 日 （2 泊 3 日） （台風にて中止）

旅 行 先：沖縄（おきなわワールド、美ら海水族館、首里城、フルーツランド）

参加人数：24 名



③忘年会開催

開催日：2013年12月13日

開催場所：全日空オアシスタワー

参加人数：126名



ボーリング大会 始球式



OBS ボール



職員旅行 おきなわワールド



職員旅行 ビオスの丘

新聞報道

『模擬手術』に挑戦

明野中の生徒が 一日看護師体験

大分市明野東の明野中央病院は11日、地元の明野中学生を対象に一日看護師体験会を開いた。看護師に関心がある3年生12人が参加。患者のケア体験などを通して医療現場の仕事を学んだ。

生徒らは患者の血圧測定

や足浴といったケアにチャレンジ。顕微鏡で赤血球や白血球を観察して人体の仕組みを学び、最後は手術室を見学。特殊な器具と高性能メラを使い、パブリカに穴を開けて内部の種を取り出す『模擬手術』も体験した。

参加した末永雛子さん（14）は「赤血球を観察したり手術室を見学したり、初めてばかりの体験で面白かった」と話した。



手術室で機器の見方などを教わる中学生

大分合同新聞

明野中央病院

一日看護師体験開催



は、明野中学校三年生の生徒十二人が参加した。

五月十一日、明野中央病院（大分市明野東）で一日看護師体験が行われた。一日看護師体験に



リ体験（車椅子・松葉杖の体験）・病院食・検査室見学（顕微鏡観察）・手術室の見学などを体験した。



大分団地新聞

明野中学三年生 明野中央病院で 一日看護師体験学習



明野中央病院
木下昭生
院長

明野中央病院（木下昭生院長）では、5月11日明野中学校3年生12名が参加し、一日看護師体験学習を行なった。

一日看護師体験学習では、「病院は医師や看護師だけでなく、栄養士、薬剤師等の沢山の方々が働いています。一日看護師体験学習でいろんな事を勉強して下さい」と話し、木下昭生院長から委任状とタスキを受け取り、各病棟に分かれて血圧測定、シーツの交換、患者さんの手足を洗ってあげたり、リハビリ室ではいろんな器具を使



つて機能回復のお手伝いと、患者さんと同じ食事を食べたりして一日看護師体験学習を行なった。

参加した生徒たちは、「いろんな体験をしながら病院は患者さんの為に、優しく対応しながら一日でも早く退院できるように祈りながら働いている事が良く分かりまし

明野タイムズ

た」と話していた。参加したある生徒は、「いろんな患者さんに優しくお世話ができる看護師を目指して頑張りたいです」と話していた。



中学生職場体験学習

7月3日・4日の2日間、明野中央病院で中学生職場体験学習が行われた。明野中学校2年生6人が参加。病院内の業務を体験した。

大分団地新聞

明野中学校2年生6名 明野中央病院で職場体験学習



リハビリ室でいろんな機械の機能の説明

明野中央病院（木下昭生院長）で、7月3日・4日の2日間、明野中学校2年生6名が職場体験学習を行った。職場体験学習では、各病棟で患者さんの手や足をきれいに洗ってあげた

明野タイムズ

大東中学2年生 明野中央病院で職場体験学習



やさしく足を洗っています

明野中央病院（木下昭生院長）で9月12日・13日の二日間大東中学二年生6名が参加し、職場体験学習を行った。木下昭生院長より「病院では医師や看護師だけではなく、栄養士・薬剤士・レントゲン技師・リハビリ技師等、沢山の方々が働いています。今日は職場

体験学習でいろんな事を学んでください」と挨拶があった。一日目は、二班に分かれて血圧測定・手浴・足浴・車椅子の輸送等を学習し、足を洗ってあげる体験学習では患者さんのお湯で洗ってあげていると、患者さんから気持ち良いよと微笑みながら言われる一場面もあり、和やかな体験学習だった。また二日目はレントゲン室・薬剤室・検査室等の体験学習を行った。これから看護師を目指す生徒もおり、充実した職場体験学習となった。

明野中央病院 中学生職場 体験学習

九月十二日、十三日の二日間、明野中央病院（大分市明野東）で中学生職場体験学習が行われた。

中学生職場体験学習には大東中学校二年生の生徒六人が参加した。職場体験学習初日は、病棟にて看護業務（シーツの取り換え、車椅子、入院患者の足浴等）体験。

二日目はリハビリテーション室、放射線科、薬剤科等を体験した。参加した生徒は、「将来、医療関係の仕事に就きたい」と話した。

大分団地新聞

明野タイムズ

明野中央病院 健康セミナー 『わらじ医者、早川一光講演会』



11月24日（日）89歳で現役、京都の名物医師『わらじ医者、早川一光』氏の講演会が、あけのアカロスタウンで行われた。

早川先生は、60年以上にわたり地域医療の第一線で働いてきた医師であり、京都西陣での路地から路地への往診や雪深い農村での地道な医療実践により『わらじ医者』の愛称で親しまれている。京都放送のラジオ番組「早川一光のばんざい人間」の司会も長く務めており、その番組で、明野中央病院が行ったリウマチ患者の旅行支援を取り上げた関係でこの講演が実現した。

講演のテーマは『いきいき生活～ボケないひけつ教えます』。健康で明るい『老い』の過ごし方について、約90分間、歌や踊り、ユーモアを交えての熱演だった。会場の約500名の参加者も笑ったり感心したりジーンと来たりで、大満足の様子だった。①いろんな事に興味や疑問を持つこと、②いろんな事に感動すること、③いつもニコニコ笑って多くの人に接すること。正しい『老い』のあり方を早川先生から教わった。

明野タイムズ

で11日、**四重奏!**

◇…笑い得心
共元気になって
もらおうと、大分
市の明野中央病院
(木下昭生院長)
「新春寄席」があ
振る

◇…県南落語組合大分支部のメンバー3人が「千早振る」「金明竹」「壺算」の演目を軽妙な語り口で披露。早口の口上やおどけた表情に拍手や笑いが起こった。

◇…メンバーらが同病院に初笑いを届ける新春寄席は今年で6回目。患者の上原康子さん(87)「大分市」は「早口ですらすら言うのにちゃんと聞き取れるからすごい。この1年も元気に過ごせそう」。



大分合同新聞

明野中央病院新春寄席

一月十一日十三時 半より、明野中央病
院において県南落語
組合による新春寄席
が開かれた。

「千早振る」(岩本
正憲さん)「金明竹
(安藤正毅さん)」「壺
算」(井上博文さん)の
三つが披露され
た。笑いで会場は盛
り上がり、あつとい



大分団地新聞

明野中央病院 新春落語寄席



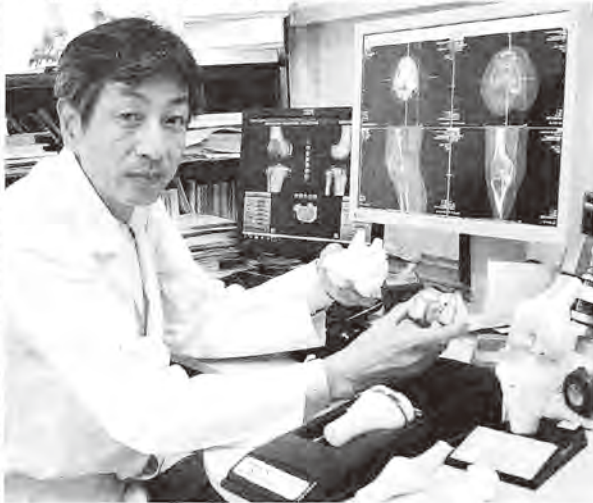
初笑いで今年も元気に過ごしてもらおうと、明野中央病院で1月11日(土)「新春明野寄席」が行われた。

寄席には入院患者、病院職員、地域住民ら約50名が集まった。リハビリテーション室に即席の高座を作り、県南落語組合大分支部のメンバー3名が『千早振る』『金明竹』『壺算』の演目を軽妙な語り口で披露した。『初』『笑』の文字が飾られた紅白幕を背景ににぎやかな「出ばやし」が流れ、はなし家たちのおどけた表情や語り口に拍手や笑いが起こった。ある入院患者は、「入院中に落語が聞けるとは今年は運が良いかも。思いっきり笑って気分もスッキリ。病気も良くなった気がする」と笑顔で話していた。

写真 『寿限無』を話す岩本正憲さん 写真・記事提供 明野中央病院

明野タイムズ

3Dプリンターで再現した患者の膝関節を持つ明野中央病院の藤川陽祐こつ・かんせつ・リウマチセンター長



明野中央病院(大分市)

変形性膝関節症の患部

3Dプリンターで再現

膝の関節を人工関節に置き換える変形性膝関節症の手術で、3Dプリンターを活用して患部の立体模型を作り、事前に手術のシミュレーションをする最新の治療法が実用化されている。2013年10月に導入した明野中央病院(大分市)の藤川陽祐こつ・かんせつ・リウマチセンター長は「正確な模型で手術できるように、手術時間の短縮や傷も小さくて済むなど患者の負担軽減が期待される」と効果を説明している。

変形性膝関節症は、膝の関節の軟骨がすり減って慢性的な炎症が起き、動かすと痛みなどの症状がある。重度になると、歩行が困難になることもある。患者は、高齢の女性に多いのが特徴。手術件数は、年間約7万件(全国)で、高齢化に伴い、毎年1万件ほど増加している。関節内のパソコンで

正確な模型で手術予行



専用のソフトを使い、患者の診察データを基に人工関節の角度などを立体的に調整できる

でき、完了後のデータを送信すると、米国から人工膝関節を入れる際の角度などを決める補助器具と実際の患者の膝を再現した立体模型が送られる。

人工関節は特殊な金属製で、歩行改善のために着ける患者が多い。人工関節を安定させるには、金属と関節

の接合面の角度が重要になるため、手術で膝を開き、骨を切ったり削ったりして、滑らかにする必要がある。

これまでの、CTなどの2次元データを基に行い、手術中に角度を微調整するなどの技術が必要だった。3Dソフトと立体模型の導入により、事前にミリ以下の単位で細かいシミュレーションができることで、傷も最小限で済み、より正確で迅速な手術が行えるようになったという。

現在は、膝関節のみだが、

(小田原大周)

模型で確認 安全に手術

変形した関節などの手術の前に、三次元（3D）プリンターで骨の実物大模型を作り、安全な方法などを確認する先進医療について、明野中央病院（大分市）が実施機関になることが決まった。来年1月から。現在は、この技術を使うと診察や投薬など通常の医療費まで全額自己負担になっているが、1月からは一部で保険が適用され、患者の経済的負担が軽くなる。県内では初、九州・山口でも佐賀、沖縄両県内の病院に次ぐ3カ所目。

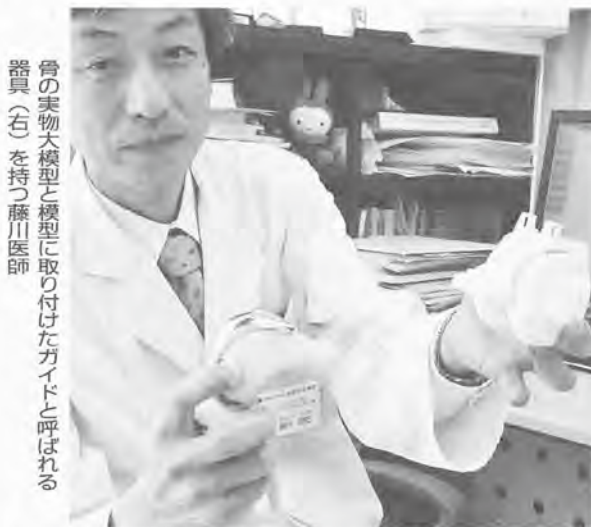
〔田中理知〕

明野中央病院（大分市）

リウマチなどで膝の骨が変形し、痛みのある患者に対しては、変形した部分を削って人工関節を入れる手術を行う。これまでは変形

先進医療の実施機関に

来月から 一部で保険適用



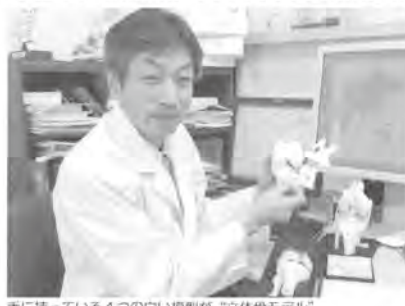
骨の実物大模型と模型に取り付けたガイドと呼ばれる器具（右）を持つ藤川医師

これに対し、新技術 物大の模型を製作。安全な手術の進め方などは3Dプリンターで実

を検討することで、変形した部分だけを削ることができ。患者への説明もしやすくなり、手術時間や術後の入院期間も短縮できるという。明野中央病院では、こつ・かんせつ・リウマチセンター長の藤川陽祐医師（52）が中心になり、10月から導入している。ただ、有効性などが十分に確認されていないとして、保険が適用されない。病院の窓口では通常、治療費の3割（小学生、69歳）を払えばよいが、保険適用

をしないと、他の診察や投薬まですべて保険が使えなくなる。その例外として、厚生労働省が指定した先進医療については、同省が認めた医療機関に限って投薬などに保険が適用される。高額な医療費の負担を軽減する制度も使える。先進医療に保険は使えないが、その他の経済的負担が大きく減ることになる。藤川医師は「模型の製作に約1カ月かかるため、早期の手術を必要とする患者には向かないが、より安全で正確な方法。患者の肉体的負担も減る」と話

大分県内初 明野中央病院 “先進医療施設認定”

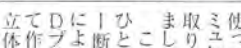


手に持っている4つの白い模型が「立体骨モデル」

当院では、人工膝にその模型を使って関節置換術（膝に人あらかじめ手術のシミュレーションを行って患者さんの膝の骨の立体模型を作り、手術前一人ひとりのC

Tデータによる三次元画像を基に3Dプリンターで手術のシミュレーションを行って患者さんの膝の骨の立体模型を作り、手術前一人ひとりのC

明野中央病院 人工関節の手術
更に安全確実に3Dプリンターで「実物大骨モデル」を作製
大分市明野東二丁目七番三十三号 電話 5581-3211



「立体骨モデル」を持つ藤川陽祐 先生

減つて慢性的な炎症が起き、動かすと痛みなどの症状が出る変形性膝関節症。重症になると歩行が困難になる場合もあるこの疾患に対して、膝に人工関節を入れる「人工膝関節置換術」という手術があります。当院では、この手術を行う時、患者さんの膝の骨を忠実に再現した立体模型を作り、手術前にその模型を

刀医ははじめ手術室スタッフは、膝の骨の「切る位置、角度、削る量、深さ、方向など」を手術前に手にとって確認することができ、実際の人工関節をどの位置にどのように入れたかを確認することができ、手術前に手にとって確認することができ、手術のシミュレーションができるおかげで、難易度の高い手術でも安全性や確実性が格段に高まり、手術時間も短縮、患者さんの身体的負担も軽減できるなど、医療スタッフと患者さんの双方に大きなメリットをもたらしています。この手術の方法は、「実物大臓器立体モデル」による手術支援という名称で厚生労働省より「先進医療」として指定されています。このたび当院のこの取り組みが、本年1月1日付けに大分県内で初めてこの先進医療の認定を受けました。

明野タイムズ

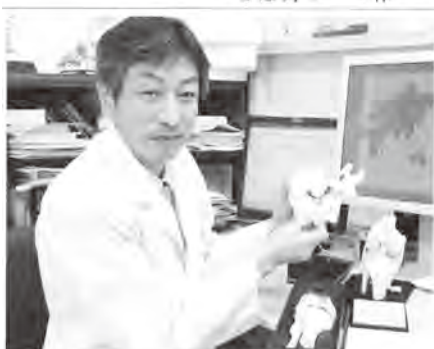
明野中央病院

大分市明野東の医療法人社団明野中央病院（院長 藤川陽祐）は、厚生労働省より「先進医療（実物大臓器立体モデル）による人工膝関節置換術」の認定を受け、本年1月1日付けに大分県内で初めてこの先進医療の認定を受けました。

3Dプリンターで「立体骨モデル」作成

人工膝関節置換の手術に活用

変形性膝関節症の手術で最も多く行われている「関節全体を入れ替える手術」は、痛みや腫れの原因である「軟骨と骨の接合部」を削り、人工関節に置き換えることで、痛みや腫れが軽減される。この手術は、手術前に患者さんの膝の骨の「切る位置、角度、削る量、深さ、方向など」を手術前に手にとって確認することができ、手術のシミュレーションができるおかげで、難易度の高い手術でも安全性や確実性が格段に高まり、手術時間も短縮、患者さんの身体的負担も軽減できるなど、医療スタッフと患者さんの双方に大きなメリットをもたらしています。この手術の方法は、「実物大臓器立体モデル」による手術支援という名称で厚生労働省より「先進医療」として指定されています。このたび当院のこの取り組みが、本年1月1日付けに大分県内で初めてこの先進医療の認定を受けました。



3Dプリンターで作成した膝関節の「立体骨モデル」

大分団地新聞

にほうジャーナル



道路に面した病院のコンクリート擁壁に絵を描く住民＝大分市明野旭町



擁壁に思い思いの絵

でっかい「キャンバス」

大分市



村山泰子

明野旭町自治会（小柳義明会長）は、明野中央病院の駐車場のコンクリート擁壁に絵を描いている。

健康づくりや3世代交流を推進する取り組みの一環。小柳会長が温めていたアイデアを同病院が快諾して実現した。「キャンバス」は道路に面した北側と東側の擁壁

（高さ2㍎）で、延べ約40㍎。昨年11月から明野中学校の佐藤誠教諭（美術）や美術部員の協力も得て、めじろん、太陽、チョウなどを描いている。これまでに幼児からお年寄りまで延べ百数十人が参加。山口聖来ちゃん（5）は「かわいい絵を描くの」とにっこり。完成は今春以降。

大分合同新聞

明野中央病院東側にキャラクターがたくさん描かれた楽しい壁画



にほうジャーナル

明野に「ウォールアート」出現

めじろんや、吉四六さん、くまモン、ワニパンマンにキティちゃん。大分市明野東の明野中央病院駐車場東側の壁に楽しいキャラクターたちがいっぱい描かれた「ウォールアート」が出現！十二月二十一日に現地除幕式があり、多くの関係者が完成を祝った。

明野で初めての「壁画」は、「健康づくりのまち明野」東校区三世代交流事業の一環として、同院から場所の提供を受けた地元の旭町自治会（小柳義明会長）や子ども会ら地域住民が力を合わせて制作したもの。コンクリート打ちっぱなしの壁面を、自治会役員が事前に水圧洗浄し、明野中学校の美術の教師や



美術部の生徒、絵心のある住民らの指導で、子ども達がチョークとペンキで思い思いに色鮮やかな壁画を描きあげた。

除幕式には明野中央病院の木下昭生院長をはじめ病院スタッフ、自治会役員、絵を描いた子ども達、住民有志ら約四十人が出席（右

の写真。ふなっしーのぞっくりさんも飛び入り参加して、子ども達は自分の描いた絵の前で記念撮影をして完成を喜んだ。楽しい壁画を前に、道行く人々も足を止めたり歩みをゆるめて微笑んで眺めていた。なお、壁画はこれからも徐々に描き足していくという。

明野中央病院 東駐車場壁画誕生



明野中央病院東側駐車場コンクリート壁にめじろん・吉四六さん・くまモン・ワニパンマン・ハローキティ等の楽しいキャラクターたちが壁に描かれ、12月21日現地で除幕式が行われ、多くの関係者が完成を祝った。

この壁画は「健康づくりのまち明野」の東校区三世代交流事業として、明野中央病院から場所の提供を受けた旭町自治会（小柳義明会長）や子ども会、地区住民が協力して作製した。



壁画の前で記念写真

関係者の皆さん達は、「壁画はこれからも描き続けて行きます」と話していた。

明野タイムズ



新入職員 1 年間を振り返って

○リハビリテーション科 理学療法士 鞭馬貴史

1 年を振り返ってみると、目の前にいる患者さんをどう捉えていくのかという観察する目を、理学療法の知識・技術を勉強会を通じて学び、また日々の業務をこなしていく中で先輩方に実際に教わりつつ学んできました。はじめは 3 年間専門学校で必死に学んできたことが身についていないんじゃないか？と思うくらい、実際の臨床ではわからないことが多くありました。しかし患者さんからみれば一人の理学療法士です。患者さんの一つ一つの質問に、「知りません」「分かりません」では通用しません。分からないながらも患者さんが不安にならないよう、先輩方に多くのことを教わりながら、患者さんと接していった 1 年間でした。まだまだ目の前のことがいっぱい、忙しさを理由に患者さんの話を聞けていないことを反省する毎日ですが、これからも一人の理学療法士としてプライドと責任をもって患者さんと接していきたいと思います。

○栄養科 管理栄養士 江藤美香子

入社したばかりの頃は、朝の回診や N S T・食数変更・配膳確認など全ての事が初めてで、戸惑うことが多く、自分が管理栄養士として務まるのか不安でいっぱいでした。当院では栄養科も朝の回診に参加できるので、患者さんの様子を見たり、他職種と関わりを持つことで情報を共有し合えます。最初は流れについていくのが精一杯でしたが、少しずつ患者さんの状態を把握できるようになりました。1 年経ち、自分にもできることが増えてきて、もっとスキルと知識を高めていかなければいけないと感じています。時には調理場にも入り大量調理の勉強をさせてもらっているのも、栄養管理も調理場の把握もどちらも出来るようになりたいです。まだまだ未熟なところばかりですが、患者さんに合った栄養管理を行い、食事に制限があっても「美味しい」と言って笑顔になってくれるような食事を提供できるように頑張ります。

入職 5 年を振り返って

○リハビリテーション科 作業療法士 安本奈穂

私が入職して以来一番の変化は、患者さんと向き合う際の考え方だと思います。入職した頃も患者さんの事を一番にと考えて仕事をしてきたつもりですが、急性期病棟・回復期病棟での勤務経験や先生方からの話、院内外での研修を経て、今は患者さんの事を一番に考えるとともに、当院に来ていただいているということを常に考え、どうすれば患者さんに満足してもらえるのかということを考えて業務を行うようになりました。そして、私にとって明野中央病院は職場という環境だけではなく、人との出会いの場でもあり、とても良い人生経験の場となっていると感じています。段々と経験を重ねるにつれ、考え方や業務内容に変化があり、現在は後輩の指導を行う立場となりました。指導することの難しさを感じていますが、後輩指導も私にとって良い経験になると思います。そして患者さんから「明野中央病院に来てよかった」と言葉をかけてもらえるようこれからも努力していきたいと考えています。



○放射線科 放射線技師 太田裕昭

明野中央病院に入職して 5 年がたちました。私は県外の病院で 5 年間の経験を積み当院に入職しました。前の病院では内科の検査を中心とした勤務をしており、当院に入職してからは整形外科を中心した勤務となり、始めははその違いに戸惑うこともありましたが、検査の装置自体は今まで扱った経験のあるものばかりでしたが、あまり経験したことがない撮影などが多々あり、先輩方に多大な迷惑をかけたかと思います。しかしその先輩方からたくさんの助言をいただき、いろいろな知識を学ぶことによって徐々に勤務にも慣れ放射線技師として成長することができたと思います。当院の職員は優しい方が多く、他職種の方々にもいろいろと気にかけてもらえたので、新しい環境には意外と早く馴染むことができました。勤務外でも様々な行事があり、そのような場でもいろいろと声をかけて頂き楽しく参加することができました。私にも入職して 4 年目に後輩ができました。その後輩にも私が今まで学んだことを伝えていき、また共に成長していければと思います。現状に甘んじることなく、これからも成長していけるように頑張りたいと思います。

○看護部 3 階病棟 看護師 赤星明美

私は、当院に外来のパートとして勤務を始めた後に、常勤となって早 5 年が過ぎました。私の中で大きく変わった事は、看護学校に通って看護師国家試験に合格したことです。私が、以前勤務していた病院には、内科、整形外科はなく、わからないことばかりでした。もっと勉強をして知識と技術を習得したいと思うようになりました。そこで、准看護師だった私は、看護師になろうと思い、学校へ通う事にしました。しかし、仕事と家庭、学校の両立は自分がはじめ想像していた以上に大変でした。何十年かぶりの学校で、レポート提出・単位認定試験に苦戦して心が折れてしまった事もありました。そんな時、支えてくれたのが、一緒に学校に通い始めた同僚の二人でした。また、職場でもスタッフみんなの協力で、学校や実習に通える環境にしてくれたおかげで単位を落とすこともなく、卒業できたのは、みんなの支えがあったからだと思います。これからは、病院や支え協力してくれたみんなに恩返しができるように働いて行きたいと思います。

○看護部 3 階病棟 看護師 玉井朝美

入職し今まで経験した事のなかったリハビリテーション病棟勤務となり戸惑う事ばかりでしたが、日々リハビリに励む患者さんを前に少しでも力になり、良い看護が出来ればと考え頑張ってきました。歩くことが出来なかった患者さんが退院時には自分でしっかりと歩く事ができ、笑顔で退院していく時、自然に私達も笑顔がこぼれます。そして、明るく常に前向きに頑張る 3 階病棟のスタッフの皆さんに元気をもらった事で今まで頑張ってきたと思います。初心を忘れる事なく、これからも患者さんに信頼される看護師となれる様に成長し続けたいと思います。



○看護部手術室 看護師 加藤啓

高校を卒業してすぐに看護の世界に入って、何も経験がない、何一つやったことがない学業との両立、自分に出来るのかすごく不安でした。また、働き始めて患者さんにどのように接していいかわからず、すごく悩みました。最近こそ少しずつ男性看護師が増えてきましたが、まだまだ女性の多い職場に戸惑うことばかりでした。看護学校でも男性は 50 人中 10 人位でしたが、志すものはみんな同じで、お互い励ましあいながら実習や国家試験を乗り越えることが出来ました。また、明野中央病院の先生や先輩方のおかげで卒業する時には皆勤賞を貰うことが出来ました。自分でもびっくりです。今では、みんながなかなか経験が出来ない手術室に配属になり、毎日が勉強です。こうして今も働き続けられているのは、先生や先輩方の指導のおかげだと思っています。これからも、看護師としての知識、技術が向上出来るように頑張っていきたいです。

○事務部医療事務課 主任 加茂里江

大学卒業後、一般企業に就職し経理・総務職を経て、以前より興味があった医療事務という職に足を踏み入れました。当初、派遣として当院に数年間勤務し、その後、正職員として勤務してから早くも 5 年が経ちました。当初、メディコムの前旧医事コンである為、もちろんオーダリングシステムもなく薬剤や検査、レントゲン等すべて手入力、そして院内処方だった為、次から次に流れてくるカルテに日々てんてこ舞いだったのを覚えています。育休復帰する度に、医事コンが変わったり、診療報酬改正があったりと覚えることだらけで、毎日が目めまぐるしく過ぎていきます。この 5 年間で随分と仕事環境も良くなり、自分自身も成長できているように思います。仕事と育児を両立させ、更に専門的知識向上の為日々精進し、笑顔で頑張っていきたいと思っています。

○事務部医療事務課 主任 西水咲子

明野中央病院に入職して早くも 5 年が過ぎました。以前勤務していた病院とは全く違う環境の中で、最初は患者さんの多さに戸惑い、業務内容など覚える事ばかりで、日々奮闘していた事を思い出します。当初は右も左もわからず、患者さんやスタッフのみなさんに迷惑を掛けた私ですが、上司や先輩、周りのたくさんの人達に支えられてここまでくることができました。本当に感謝しています。受付、会計、計算等、毎日、大充実している私達の部署ですが、患者さんが病院に来て気持ちよく帰っていかれるように、接遇に気をつけ、どんな時でも笑顔を絶えず、相手の立場に立って考えて行動できる自分になれるように、これからも日々勉強していききたいと思います。



○事務部医療事務課 飯田明子

当院に入職して5年が経ちました。1年目は仕事を覚える事で精一杯になってしまい、当初は受付で患者さんからの質問にも上手く答えられず相手を不安な気持ちにさせてしまった事もあり、その度に先輩スタッフに対応方法を教わり助けられたのを覚えています。また少しずつ仕事の流れを把握し、色々な経験を積むことで最初はあまり周りを見る余裕もありませんでしたが、徐々にその場の状況を見て自分が今何をしないといけないのかがわかってくるようになりました。昨年末からは外来から入院事務へ担当が変わり、初めて入院の請求事務に関わるようになりました。計算入力外来の時とは全く違い、入院費に関わる手続きなど新しい内容が多く、学ぶ事がたくさんある為もっと知識を増やして日々勉強していきたいです。まだまだ未熟なところがありますが今まで学んだ事をいかして仕事に取り組みたいと思います。

入職 10 年を振り返って

○看護部3階病棟 主任 看護師 佐藤美津子

あっという間に長いようで短い10年が経ったように思います。急性期病棟、訪問看護、外来を経験し、現在は回復期病棟で患者さんに自宅退院に向けての看護、支援に奮闘しています。訪問看護は初めてで不安だらけでしたが私達を待っていてくださる患者さん、御家族さんがいる喜びと訪問看護の難しさを経験しました。日々の忙しさの中で心折れる時も涙流す時もありました。また、ご迷惑をおかけしたことも多々ありました。いろんな壁に当たった時も、先輩の方や、同僚が良きアドバイスや援助をしていただきこの10年が迎えられたと思います。また、個人的ではありますが、たくさん勉強する機会を与えて頂き感謝しております。それと、当院で出会ったたくさんの患者さんの貴重なご意見、ご声援に感謝しています。これからも今以上に感謝の気持ち、人の気持ちを忘れずに思いやりのある優しい看護ができる看護師を目指して頑張っていきます。

○看護部手術室 看護助手 小谷菊代

入職10年を振り返って思えば、12年前に准看護師として明野中央病院に入職し迷惑だけをかけて病気退職した私を再び「また一緒に働きましょう」と前看護部長に誘われて再び働くことになり、手術室の中材で働きはじめ早10年が過ぎました。はじめは、業者さんより届く器械や物品の事がまるでわからず、うろうろするばかりで1日が過ぎていく日々で、本当に私で良かったのだろうか？と悩んだりもしました。今ではようやく少しずつ何の手術に使う器械なのかの判別もつくようになりました。これからも、新しい器械が入ってくるとはと思いますが、手術室スタッフに助けをもらいながら頑張っていきたいと思っています。



入職 25 年を振り返って

○看護部 2 階病棟 師長 春岡佐代子

私が入職した昭和 63 年頃の病院は 80 床で内科患者が多く整形外科の入院患者は少なかった。私は下の子供が小学生になり子育ても落付いた為に、10 年振りに働こうと准看で入職しました。病院は現在の旧館だけの建物で、整形外科の医師は非常勤と大分中村病院からレントゲン技師が応援に来ていました。ブランクが長かった為不安もありましたが、少しずつ仕事にも慣れ、家族の協力もあり頑張れたと思います。しかし、仕事のことや人間関係など思い悩んだこともありました。その都度同僚から励まされ、一度は諦めていた進学も同僚の勧めで、チャレンジしてみようと決心し当時高三の長女と勉強をしました。高看入学後は学校と家庭と忙しい日々でしたが、同期生 3 名と楽しい学校生活を送ることができました。平成 8 年 43 歳で無事卒業し、先輩看護師と共に気持ちも新たに学んだ知識・技術を生かし看護の提供ができるよう強い意識を持ち頑張ろうと取り組みました。また、内科・整形外科医師が常勤となり、患者数や手術も増え、レントゲン技師やリハビリスタッフ・看護師スタッフも充実し活気あふれる病院へと変化していきました。また、病院機能評価を受けるために職員一同一丸となり取り組み、頑張ったことは良かったと思います。今振り返って見ると、家族の協力と素晴らしい上司、同僚に恵まれた 25 年間であり、仕事が続けられた事に感謝しています。



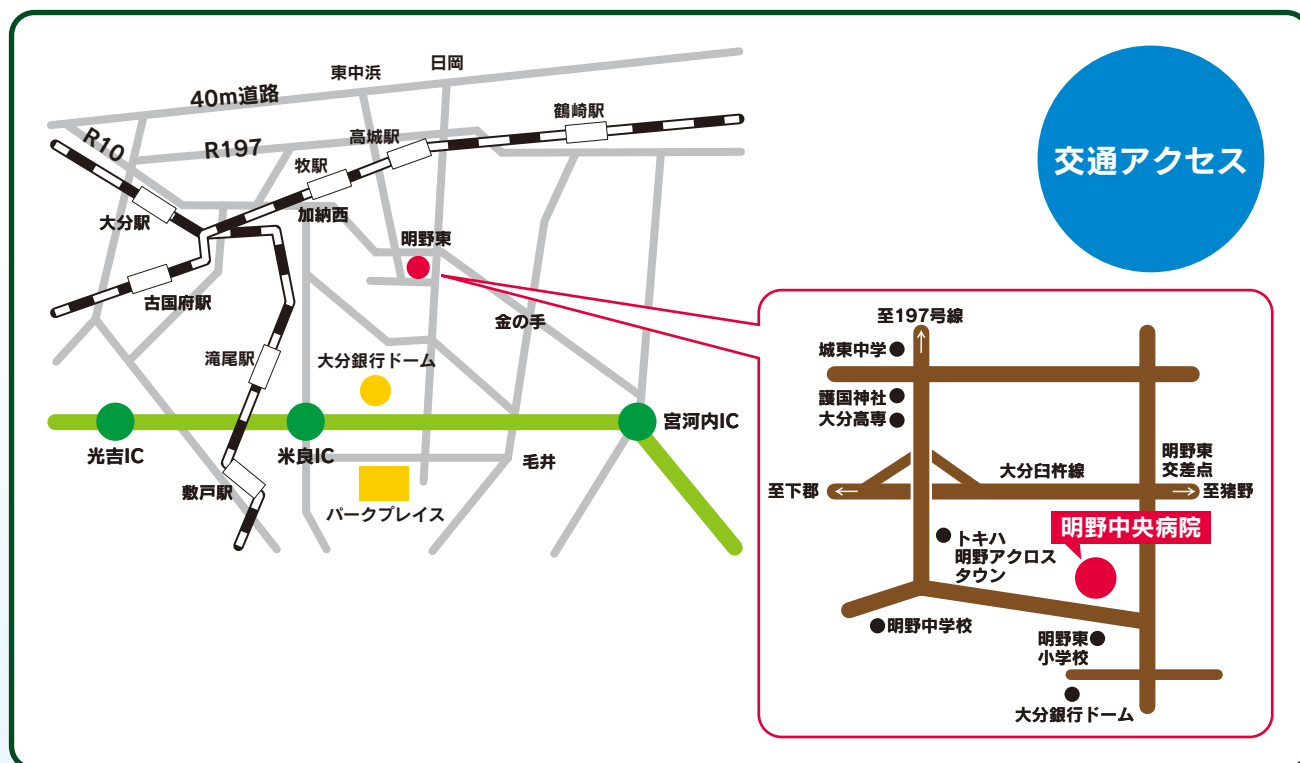
医療法人社団唱和会 明野中央病院

事業報告書（2013年度）

2014年8月1日発行

発行／医療法人社団唱和会 明野中央病院

編集／医療法人社団唱和会 明野中央病院 事務部総務課



医療法人社団唱和会 **明野中央病院**

〒870-0161 大分県大分市明野東2丁目7番33号

TEL (097)558-3211 FAX (097)558-3709

E-mail: akenohp@fat.coara.or.jp

<http://www.akenohp.jp/>